

指導資料

特別支援教育 第204号



鹿児島県総合教育センター

令和2年4月発行

対象

校種

高等学校



高等学校用特別支援教育研修パッケージの活用 －教職員の理解を深めるために－

近年、特別支援教育の推進が重要視されている。特別支援教育は、診断の有無にかかわらず、特別な支援を必要とする児童生徒を対象とする。そこで、高等学校における特別支援教育を推進するための高等学校用特別支援教育研修パッケージを提案する。

1 高等学校における特別支援教育の推進の難しさ

停学処分となったAさんの例

Aさんって
どんな生徒？

- ・ 自閉症スペクトラムの診断あり。
- ・ 情緒が不安定で、状況の判断が苦手である。
- ・ 暴力や暴言があり、周囲の人々との適切な関わりが難しい。
- ・ 集団での活動が難しく、儀式等には不参加。
- ・ 希望している一般企業への就職は難しい。

どう捉えて、どう対応する？

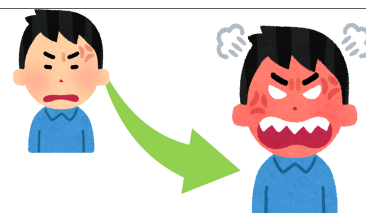
友達や先生とのトラブルは多いけど、自閉症だからしかたない。(担任)

暴言・暴力があり、何度注意しても繰り返すから、強い指導が必要だ！(生徒指導係)

情緒不安定になったときは、大声で叱責したり身体を押さえ付けたりせず、他者と離して着席させ、落ち着いてから、状況を確認したり適切な行動を促したりするような支援が必要である。(特別支援教育コーディネーター)



Aさんは、他の友達とふざけ合っていて、ぶつかってきた友達に激高してひどい暴言を吐き、止めに入った教師に押さえ付けられて、パニックになり暴力を振るった。



高等学校では、教科担任制や学年部、校務分掌など、多くの業務が分業化されている。しかし、生徒の支援に関しては、明確に分業して対処することは困難であり、学校全体として組織的に特別支援教育を推進し、協働して支援していく必要がある。そのためには、教員の特別支援教育に対する理解と専門性の向上が不可欠であり、発達障害等に関する知識や個に応じた対応に関する研修が求められている。そこで、各学校の研修やケース会議等で活用できる「高等学校用特別支援教育研修パッケージ」を構想した。各高等学校において協働して特別支援教育に取り組むための基盤を整えることができるよう活用例を提案する。

2 障害の理解と特別支援教育

平成13年に「国際生活機能分類」ICFが示された。ICFでは、「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の3要素で構成される生活機能に支障がある場合は「障害」と捉え、生活機能と障害の状態は、健康状態や環境因子、個人因子と相互に影響し合うものであるとしている。この、国際的な障害の捉え方の変化により、特別支援教育の推進が重要視されている。

本パッケージを活用することで、例えば、図1のようにAさんの生活機能を向上させることができると考える。つまり、Aさんの状態像であっても、①教師や家族など周囲の理解が深まり、サポートカードやスケジュールといった管理ツールが活用されるなどの環境因子や、②支援を受け入れられる、パソコンが得意といった個人因子などとの相互作用により、③感情のコントロールができるようになり、集中力が高まる。すると、④良好な対人関係が築けるとともに、ストレスへの適切な対処ができるようになり、⑤集団活動に参加できるようになる。さらには、得意なパソコンでの業務がある企業への就労に挑戦するなど、自立と社会参加に向けて状況を改善させることができる。

困っている生徒一人一人の困難さを軽減していくために、教育的ニーズに応じた指導・支援を充実させていくことができるよう、是非、本パッケージを活用して特別支援教育を推進してほしい。

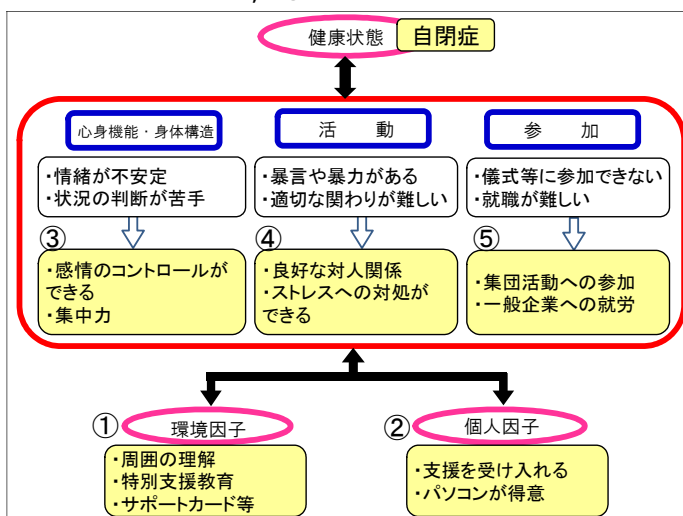


図1 Aさんの生活機能の向上

3 高等学校用特別支援教育研修パッケージ

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/tokusikyou/top.html>



パッケージ内の教材として、校内研修等に使えるものや具体的な指導・支援を検討する際に参考になるよう、以下のように構成した。今後、必要に応じて追加していく予定である。

(1)プレゼン 研修教材	プレゼン研修教材① プレゼン研修教材②	特別支援教育の現状と発達障害の理解（20分） 個に応じた指導・支援と学校における合理的配慮（20分）
(2)個別の指 導計画	個別の指導計画① 個別の指導計画②	様式例 記入例
(3)チェック リスト	チェックリスト① チェックリスト② チェックリスト③	支援体制チェックリスト 授業のユニバーサルデザインチェックリスト 生徒の実態把握チェックリスト 教師用（4p.表1） 生徒用
(4)指導資料	指導資料① 指導資料② 指導資料③ 指導資料④	高等学校等における特別支援教育の推進（1974号） 特別支援教育の途切れない支援の在り方（1883号） 通常の学級における授業の改善（1975号） 通常の学級で取り組む合理的配慮（1956号）
(5)県教委 リーフレット	リーフレット① リーフレット②	高等学校における特別支援教育の推進 ・自己肯定感を高めるために ・一人一人の生徒が自信をもって学ぶために

4 課題や状況に応じた教材の活用例

それぞれの課題や状況等に応じた教材の例やその内容、活用方法、留意事項等を以下に示す。

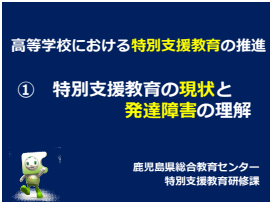
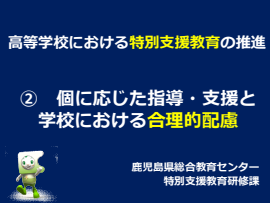
課題や状況等	教材	教材の内容や活用方法、留意事項等
特別支援教育の基礎的理解 ○ 担任と生徒指導係、コーディネーターがそれぞれ異なった見解をもっている。 ○ 特別支援教育の対象となる生徒の認識が教師により異なる。 ○ どの校務分掌や係が対応するのか分かりにくい。 ○ コーディネーターなどの一部の教師の取組となっている。	(1)プレゼン研修教材①  (3)チェックリスト① (4)指導資料①	・ 校内研修を行う。プレゼン教材資料には、口述が付いており、専門家を呼ばずに教師主体で研修ができる。また、学校の実情に応じて、どこに重きをおいて研修するかなど、カスタマイズすることができる。 ・ 20分程度のプレゼン視聴後に、学校の課題等について意見交換をしたり、方向性を絞り合わせたりする時間をもつことで、より、実践につながる研修になる。 ・ 生徒指導上の問題が表面化している場合でも、特別支援教育の対象でもあることを共通理解する。
アセスメント・実態把握 ○ 実態把握が難しい。 ○ 実態を把握するのに時間を要して取組が遅くなる。 ○ 診断を受けていない。 ○ 発達障害かどうか分からない。 発達障害と診断されていなくても、支援が必要な特性のある生徒は少なくない。発達障害の診断の有無にかかわらず、困っている生徒に早く気づき、特別支援教育の対象として支援をすることが重要である。	(3)チェックリスト③ 教師用、生徒用 (4)指導資料②	・ 個に応じた指導・支援を行うには視点を明確にした実態把握が必要である。 ・ (3)ー③生徒の実態把握チェックリストには、教師用と生徒用がある。まずは、表1の教師用チェックリスト等を利用し、学習面のみでなく多角的に実態を把握し、困難さのある生徒に気付くことが大切である。 ・ 生徒用は生徒自身にチェックさせ、教師の気づきを補填する以外に、生徒自身が自己の得手・不得手を知り、対処方法を身に付けさせていくものである。
個に応じた対応 ○ 個に応じた具体的な指導・支援が分からない。 ○ 合理的配慮や基礎的環境整備という言葉の意味が分からない。 ○ 合理的配慮や学校で行う基礎的環境整備の例を知りたい。	(1)プレゼン研修教材②  (4)指導資料④	・ 校内研修を行う。 ・ 特別支援教育として実際に行われている合理的配慮や基礎的環境整備について、様々な例を挙げている。 ・ 合理的配慮は障害種により決まるのではなく、個に応じるものである。 ・ 実態把握をした上で、学校組織全体で、一人一人の合理的配慮について検討していく必要がある。
授業 ○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業とはどのようなものか分からない。	(1)プレゼン研修教材② (3)チェックリスト② (4)指導資料③	・ 学校が行う基礎的環境整備として、全ての生徒に分かりやすいように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「分かる授業づくり」が重要である。
個別の指導計画等 ○ 個別の指導計画等の様式や書き方が分からない。 ○ 引継がうまくいかない。	(1)プレゼン研修教材② (2)個別の指導計画①② (4)指導資料② (5)リーフレット②	・ 高等学校においても、必要な生徒に対しては、個別の指導計画等を作成することが必要である。保護者とも共通理解を図る。 ・ 様式等を参考にして、学校の実情に応じた計画を作成する。 ・ 移行期の情報は紙面で確実に引き継ぐ。
その他 ○ 自己肯定感が低い生徒がいる。 ○ 対象となる生徒の生徒指導や進路指導が難しい。	(5)リーフレット①②	・ 生徒が自己理解を深め、自己肯定感を高める支援として、生徒指導や進路指導の工夫が記載されている。

表1 生徒の実態把握チェックリスト（教師用）

領域	番号	観 察 項 目	チェック
生活面	1	身の回りの整理整頓や片付けができず無頓着である	
	2	身体や衣服を清潔に保ったり、場に応じた服装に配慮したりすることが難しい	
	3	スケジュールを把握(時間を管理)して、見通しをもって行動することが難しい	
	4	細かいところまで注意がいかず、不注意による失敗がある	
運動面	5	キャッチボールや縄跳び等、道具と身体の動きを協調させて運動することが難しい	
	6	端を合わせて折る、正確に切る等、巧緻性を必要とする手指の運動や操作が難しい	
	7	バランスをとったり、テンポに合わせたりすることが難しい	
	8	力を加減することが難しい	
学習態度・学習面	9	学習活動に必要な物を忘れたり、なくしたりする	
	10	全体指導において、一斉での指示を理解し行動することが難しい	
	11	課題が分かっているがやらなかったり、注意が持続せず投げやりになったりする	
	12	授業中、手足を動かしたり手遊びをしたり等、落ち着かない態度がみられる	
	13	集団での話し合いや集団活動に参加することが難しく孤立する	
	14	漢字を正確に書くことが難しかったり、形や大きさがうまくとれなかったりする	
	15	板書等を書き写すのに時間がかかったり、正確にできなかったりする	
	16	限られた量の作文や決まったパターンの文章しか書けない	
	17	基礎的な計算や簡単な暗算ができない	
	18	機械的な計算はできるが、文章問題の意図を理解し、解くことが難しい	
コミュニケーション	19	人の話の途中に割り込む等せずに、最後まで人の話を聞くことが難しい	
	20	話を聞いていても注意が続かず、要点を聞き漏らす	
	21	状況に応じた適切な声の大きさや速さで話すことが難しい	
	22	含みのある言葉や冗談が通じず、相手とトラブルになる	
	23	会話が形式的で抑揚なく話したり、困惑するようなことを言ったりする	
	24	場面に関係なく思いつきで話したり、話すうちに内容がそれてしまったりする	
	25	自分の気持ちを説明することが難しい	
社会性・対人関係	26	感情をコントロールすることが難しい	
	27	マナーやルールを守ったり、柔軟に対応したりすることが難しい	
	28	自分なりのスケジュールや手順などにこだわりがあり、変更を嫌がる	
	29	場の雰囲気や相手によって振る舞いや話し方を変えることが難しい	
	30	アドバイスをなどを素直に受け入れることが難しい	
	31	他者の感情を理解することが難しい	
	32	他者や大人に対して排他的であり、協力することが難しい	
	33	状況に応じない明らかな嘘をつくことがある（虚言）	

本パッケージは、総合教育センターWebサイトの教育情報提供（カリキュラムセンター）各教科等の調べる（データバンク）「特別支援教育」に掲載しており、ダウンロードできるようになっている。「特別支援教育」には、「障害の理解」や「教育課程」、「相談支援ファイル」、「指導資料」等のページもあるので、併せて参考にしてほしい。

－引用・参考文献－

- 柘植雅義、石隈利紀『高等学校の特別支援教育』、平成25年、金子書房
- 海津亜希子『個別の指導計画 作成と評価ハンドブック』、平成30年、学研

（特別支援教育研修課 鎌田 志穂）

※ 見やすいフォントを使用しています。